

食農学類 申文浩准教授が「クリタ水・環境科学研究優秀賞」を受賞!

食農学類の申文浩准教授が、「2020年度クリタ水・環境科学研究優秀賞」を受賞しました。本賞は、過去にクリタ水・環境科学振興財団の研究助成を受けられた研究者の中から、優れた研究成果や社会貢献の実績をあげている研究者に対して授与するもので、今年度は申准教授のほか5名が受賞しました。申准教授は2015年度から2016年度にかけて、同財団の研究助成を受け、環境水中の放射性セシウムの動態解明に関する研究活動を行ってきました。

【受賞概要】

所属：福島大学 食農学類

氏名：申^{しん}文^{むの}浩 准教授

受賞名：2020年度クリタ水・環境科学研究優秀賞

業績名：環境水中の放射性セシウム分析における前処理手法に関する研究

【業績の概要】

受賞者は、東京電力福島第一原子力発電所（第一原発）の事故で放出された放射性セシウムの長期環境動態評価に必要な水中の放射性セシウムを分析するための前処理手法の比較検討や、水中の放射性セシウムの存在形態、動態を解明する一連の研究を行ってきました。特に、第一原発から40km圏内に位置する、ため池や河川地点において、ろ過時のフィルターの孔径と、前処理手法の違いが溶存態放射性セシウムの測定値に与える影響を明らかにし、各手法の特徴を整理した研究成果が高く評価され、今回の受賞に至りました。

【関連業績】

- 1) Behavior of radiocesium in decontaminated paddy fields in Fukushima Prefecture, Japan, Moono Shin (1番目) 他6名, Paddy and Water Environment, 17(4), pp.703–714, 2019
- 2) Repeatability and reproducibility of measurements of low dissolved radiocesium concentrations in freshwater using different pre-concentration methods, Momo Kurihara, Moono Shin (21番目) 他25名, Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry, 322, pp.477–485, 2019
- 3) 陸水中における微量溶存態放射性セシウムの濃縮法の比較, 保高徹生, 申文浩 (2番目) 他23名, 分析化学, 66(4), pp.299–307, 2017

【クリタ水・環境科学振興財団について】

公益社団法人クリタ水・環境科学振興財団は、水環境に関する科学の振興を図り、自然と人間の調和を促進する社会発展に貢献するとともに、人と生態系にとって豊かな地球環境の創造に寄与することを目的として、1997年3月12日に設立され、水と環境の科学の分野における調査・研究およびその国際交流に対する助成事業等を運営しています。



受賞記念品（盾）と副賞



WEB 式典の様子

（お問い合わせ先）

食農学類准教授 申 文浩

電話：024-504-2111

メール：moonoo@agri.fukushima-u.ac.jp